

# 火災を瞬時に発見

## アタック ライターの火も感知

陶芸用保安装置など製造のアンテック（岡山県邑久町）は、建物の火災を早期に感知し、インタ

ーネットを介して利用者の携帯電話などに通報する「放火検出セキュリティシステム」を開発し

た。高感度センサーがライターなどの小さな炎でも感知するため、初期火災の発見に役立つのが特長。

同システムは、センサーが炎の光に含まれる紫外線を検出。無線発信された信号をデータ集積装置が受け、ネットを通じて管理者である同

火災を感知する紫外線センサー（右）とデータ集積装置

社のサーバーへ送信。自動音声や電子メールにより、利用者の固定電話や携帯電話へ通報する仕組み。

センサーは、大気層などの影響で絶えず変動している太陽光の紫外線と、比較的安定している炎の紫外線とを識別。屋外でも日光の影響を受けず、五ヶ先にある二ヶ程度の炎が検出可能。バッテリーの消耗度を自己診断しデータを発信する機能も持つ。

集積装置は、一台で最大五十個のセンサーを個別に管理し、利用者はどのセンサーが作動した

かが分かる。赤外線センサーや、窓ガラスが割れるショックを検出する衝撃センサーなどの併用も可能で、火災だけでなく、不法侵入など総合的な防犯対策に活用できる。

同システムは企業見本市「ビジネスショウ O SAKA2003」（四月六日・大阪市）に出展。

価格はセンサー十個と集積装置一台の標準タイプで百二十万～百三十万円の見込み。

同社は「ある程度の熱や煙が充満しないと感知しない通常の火災報知器に比べ、早期発見につながる。寺院などを中心に初年度百セットの販売を目指す」としている。

平成15年6月5日

山陽新聞